

# 感染症情報 3月23日～29日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	391例(堺市	26例)
②溶連菌感染症	254例(堺市	25例)
③突発性発疹	71例(堺市	5例)
④水痘	38例(堺市	0例)
⑤伝染性紅斑	34例(堺市	2例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 157例(堺市 3例)

が報告された。感染症報告数は前週比5.9%増の876件であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比較して9%増、堺市では前週の86%増であった。溶連菌感染症は府下で8%増、堺市で18例→25例は39%増で、定点当たり0.95→1.32であった。水痘が府下で7%減、堺市で1例→0例であった。伝染性紅斑は府下で26%増、堺市で前週・今回とも2例であった。

インフルエンザは府下で49%減の157例で、定点当たり1.02→0.52は定点あたりの報告数が1を下回っており、非流行期に入ったと考えられる。堺市の3例は82%減、定点あたりは0.59→0.10であった。

**指定感染症：**大阪府下の新型コロナウイルス感染症は3月23日から29日までに75例増えて、累計208例となっていた。大阪府では1月26日から3月29日まで延べ3,232件を検査して208件陽性(単純陽性率6.4%)。堺市では2月6日から4月1日までの258検査中、15例が陽性で(うち1例は堺市以外、単純陽性率5.8%)、直近の3月23日から4月1日に88検査中、9例が陽性であった(単純陽性率は10.2%に上昇しており、要注意である)。

麻疹や風疹の報告はなかった。